

第4学年社会科学学習指導案

山川町立德光小学校 教諭 川原園 達司

- 1 単元 郷土の発展に尽くした人々
「からいもおんじょ 前田利右衛門」

- 2 単元について

- (1) 単元の位置とねらい

子供たちは、これまでに自分たちが毎日使っている水がどこからどのようにして届けられるのかを調べたり、使った後の水がどのようにして処理されるのかを調べたりして毎日の生活に欠かせない水を安全・快適に使えるようにするためのはたらきやそこに携わる人々の工夫や努力について学んできている。また、ゴミの処理について調べる活動を通して町を清潔に保つとともにゴミを少しでも減らし資源を有効に活用しようとする工夫について知り、自分たちにはどんなことができるか学んだことを生活に生かそうとする態度も身につけ始めている。さらに、警察や消防が日頃行っている活動を調べ、安全な町づくりについて学んできている。このような学習を通して子供たちは、地域に働く人々の働きや思いにふれ、身近な人々が生活を支えるために努力を積み重ねているということを実感してきている。また、自分たちに協力できることはなにかということを考え始めてきている。

しかし、現在自分の目に見えている人々の生活や努力・工夫に対しては自分なりの考えをもつことができても過去から現在に至るまでに地域の環境がどのような変遷をたどってきたのか、先人がどのような努力をしてきたのかということにはあまり目が向いていない。

そこで、本単元では、前田利右衛門とさつまいもとのかわりを調べる活動を通して、自分の住んでいる地域の先人が生活を向上させるためにどのような努力をしてきたのかということをとらえさせるようにするものである。また、人々の生活を少しでもよくしようと願い、危険を冒してまでさつまいもを持ち帰った前田利右衛門の行動に共感したり、苦難に打ち勝ち、生活を向上させていった人々の努力にも共感させるものである。さらに、現在目にしている地域（郷土）の環境は、先人の尊い努力の上に築かれたものであるということにも気付きかせようとするものである。

このような学習は、自分の住んでいる身近な郷土に目を向け、将来自分たちの手で郷土を守り、育てていこうという態度を養うことへと発展していくものである。

- (2) 指導の基本的立場

子供たちの住む山川町岡児ヶ水一帯は現在、南薩畑地かんがい事業によって整備された畑作地帯である。しかし、現在のような姿になるまでは「浦」とよばれる小さな漁村にすぎず、人々は開聞岳の火山灰に覆われた土壌のわずかな畑を耕し、あわやそばなどの作物を細々と育てる生活をしていたのである。つまり、現在目にするような広大な畑はなく、いわば「半農半漁」といえるような生活をしていたのである。火山灰土壌、台風の常襲地という過酷な環境の中で、先人たちは飢えや貧困に苦しんでいたのである。

そのような生活の中であって、船乗りであった前田利右衛門は「腹一杯食べたい。みんな豊かな暮らしをしたい。」と願い、どのようにしたら人々の生活が向上するかということを考えていたのである。そして、前田利右衛門は、船に乗って訪れた琉球で現地の人々が見たこともない食べ物を口にしてのを目にするのである。この琉球の人々が食べていたものこそ「唐いも」つまり、さつまいもだったのである。前田利右衛門はさつまいもを食べ、あまりのおいしさとやせた土地でも育ち、日照りや台風にも強い作物であるという特徴にひかれ、一株だけ山川へ持ち帰り育てる決心をしたのである。これは「さつまいもならば山川の土地でも育ち、人々の生活も豊かになるかもしれない。」という前田利右衛門の強い願いと信念によって起こされた行動である。さつまいもは岡児ヶ水の人々になかなか理解されなかったが、前田利右衛門はきっと育つと信じて見事に栽培に成功する。

このことによって岡児ヶ水では安定した食物の供給が実現し、人々の生活も向上していったのである。さらに、悪条件に強い作物という特徴に江戸幕府も着目し、飢饉対策としてさつまいもを育てることにしたのである。

そこで、ここでは、前田利右衛門がさつまいもを山川町に持ち帰り、栽培に成功するまでの様子を調べる活動を通して自分たちの暮らしを少しでもよくしたいという願いやその願いを実現するまでの苦労や努力、願いが実現したときの喜びに気付かせるようにする。

そのために、まず、子供たちに、自分たちが日頃目にしている広大な畑が広がる地域の風景がどのような変遷をたどって現在のよう姿になってきたのか、自分たちの住む地域が昔はどのような姿であったのかという問題意識をもたせ、追求意欲を持たせるようにする。

そして、現在の地域の姿になる上でさつまいもと前田利右衛門の果たした役割が大きいということに着目させ、追求の柱を立てさせるようにする。さらに、前田利右衛門がさつまいもを持ち帰り、広める間での様子を紙芝居や劇など自分なりの方法で表現することで前田利右衛門や地域の先人たちの苦労や喜びにも共感できるようにする。

このような学習を通して、子供たちは、自分たちが住む地域（郷土）の昔の様子を予想し、資料を調べたり、現地調査や聞き取り調査をしたりしながら自分の予想を確かめる楽しさや新しい知識を得る喜びを味わうことになる。また、見通しを立てながら追求する力や自分なりの表現方法を工夫する力を身につけたり、人々の生き方や考え方に対する関心や理解を深めたりすることになる。

（３）指導上の留意点

以上のようなことをふまえ、指導に当たっては次のようなことに留意したい。

ア 現在の山川町の様子を写した写真を見て、気付いたことを発表する活動を通して、自分たちの住む地域が広大な畑の広がる農業地帯であることを意識づけるようにする。次に、300年前の地域の様子を予想させることにより現在に至るまでにどのような変遷をたどってきたのかという問題意識を持たせるようにする。そして、300年前の予想図と自分たちの予想とをくらべて、300年前は農業ができるような土地ではなかったということに気付かせ、追求意欲を高めるようにする。さらに、地域の様子が大きく変わった要因を話し合わせ、どのようなことを調べればよいのかという見通しをもたせるようにする。

イ 前田利右衛門が持ち込んださつまいもによって人々の生活が向上していったことを明らかにするために、なぜ、300年前は農業がさかんではなかったのかということに着目させるとともに、現在、身近に栽培されているのがさつまいもであるということから追求の手がかりを見つけられるようにする。その中で、さつまいもという呼び方と「からいも」という呼び方があるのはなぜか、地域の人々はどちらをよく使うかということも考えさせたい。また、からいもの「から」とは中国のことであることを知らせ、さつまいもが外国からやってきたものであることに気付かせるようにする。さらに、追求活動の中にフィールドワークや人材活用を取り入れ、机上の追求活動だけでなく体を動かして追求していく喜びを味わわせたい。

ウ 追求した結果、前田利右衛門をはじめとする地域の先人たちが強い願いをもって生活を向上させよと努力してきた様子を紙芝居や劇、新聞など多様な方法で表現する活動を通して、先人たちの思いに共感できるようにしたい。また、これからの地域（郷土）をどのようにしていきたいか、どんな町にしていきたいかということを考え、話し合う活動を通して、自分の郷土を愛する心情や自分も郷土の一員であるという自覚をもたせられるようにしたい。

3 目 標

- (1) 300年前の地域の様子を自分なりに予想し、その予想をもとにしながら先人の暮らしや地域の変遷の様子や、先人の思いや願いについて意欲的に調べようとする。
【関心・意欲・態度】
- (2) 調べたことなどを基に、地域の人々の願いと、その実現のために尽くした前田利右衛門の働きや苦心を考えることができる。
【思考・判断】
- (3) 前田利右衛門に関する資料を調べたりフィールドワークを体験したりしてわかったことを自分なりの方法で文や絵に表すことができる。【技能・表現】
- (4) 前田利右衛門をはじめとする先人たちが生活を向上させたいという強い願いをもって努力したことにより自分たちの住む地域が現在のような姿になったというこを理解している。
【知識・理解】

4 指導計画 (全13時間)

学習過程	主 な 学 習 活 動	子供の意識の流れ	教師の具体的な働きかけ
つ か む (2)	<p>1 学校の周辺(岡兎が水)を歩き、身の回りの様子を観察する。</p> <p>2 300年前の地域の様子を予想する。 ・土地の様子 ・人々の生活の様子 ・現在との違い</p> <p>3 予想したことをもとに学習問題を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学校の周辺の土地はどのようにして今のようすがたに変わってきたのだろう。</p> </div>	<p>畑が多いなあ。 いろいろな人が働いているよ。 畑では何を作っているのかなあ。</p> <p>今よりも畑が多かったんじゃないかな。</p> <p>いや、畑はあんまりなかったんじゃないかな。</p> <p>今のよう姿に変わるにはなにか理由があったはずだ。</p>	<p>学校の周辺を歩くことで自分の住んでいる地域の環境に目を向けられるようにする。 観察の視点を明確にする。</p> <p>・土地の利用の様子 ・働いている人の様子 学校周辺の観察を想起させながら予想を立てさせる。 人々の生活の様子にも目が向けられるようにする。</p> <p>資料 航空写真 300年前の想像図</p>
調 べ る (6)	<p>4 地域の様子が変わった理由を話し合い、追求の柱を立てる。 ・300年前の暮らし ・さつまいもと前田利右衛門 ・さつまいもと人々の暮らしの変化</p> <p>5 話し合ったことを確かめながら調べる。 ・資料をもとに ・フィールドワーク ・人材活用(ゲストティ</p>	<p>どうして変わったんだろう。 さつまいものおかげなのかな。</p> <p>昔は苦しい生活をしていたんだなあ。 みんながんばってたんだな。 前田利右衛門は人々の</p>	<p>畑に植えられている作物は何か考えさせ、さつまいもに目が向くようにする。</p> <p>人々の生活が安定していなかったことに気付かせる。</p> <p>前田利右衛門の思い</p>

まとめる (3)	6 調べた結果をまとめ、発表する。 ・紙芝居 ・劇 ・新聞・ポスター 等	生活をよくしようと考えてたんだな。 前田利右衛門は人々を救ったんだ。 さつまいもの登場で生活がこんなに変わったんだよ。	や願いを考えながら調べられるようにする。 なぜ、さつまいもが普及したのか考えさせる。 多様な方法で表現できるようにする。 自分の住んでいる地域をどのようにしていきたいか、自分にできることは何か考えさせて学習のまとめにする。
広げる (2)	7 未来の山川町の姿を自分なりに考え、話し合う。 ・未来へのメッセージ	こんな山川町になってほしいなあ。	

5 本 時 (2 / 1 5 時)

(1) 目 標

なぜ、地域の様子が大きく変わったのか自分なりに予想し、追究のための見通しを立てることができる。

【思考・判断】

(2) 実 際

過程	おもな学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つ	1 学校の回り(地域の様子)について話し合う。 (1)歩いて観察して気付いたこと ・畑があったよ。 ・人が働いていたよ。 ・車がたくさん通ったよ。 (2)写真を見て気付いたこと ・思ったより畑が広いなあ。 ・きれいに整理された畑だなあ。 ・家がかたまっているよ。	15分	土地の利用の様子や地域に住む人々の様子について話し合わせる。 学校の回りの様子を大きくとらえられるようにし、整然と並ぶ広大な畑、家々のならびなどに気付くようにする。 自分たちの住む地域は畑が広がる農業地帯であることを確認させる。
か	2 300年前の地域の様子はどうかグループで話し合う。 ・もっと畑があっただろう。 ・道路がなかっただろう。 ・人があまり住んでいなかっただろう。		徳光小学校ができて約130年ということからだいたいどのような時代だったかをイメージできるように助言する。 現在と比べてどうだったかという視点で予想させる。
む	3 300年前の想像図を見て、自分たちの考えとくらべてみる。 ・何にもないなあ。 ・草ぼうぼうだなあ。 ・なぜ、畑がないのかなあ。		自分たちの予想とどこが違ったのか確認しながら見ていくようにする。 300年前と現在が大きく違うということに関心をもてるようにする。
立てる	4 学習問題を立てる。 どうして今のような畑の多い土地にうまれかわることができたのだろう。		なぜ、地域の様子が大きく変わったのか自分なりに予想し、追究のための見通しを立てることができる。 (ノート:【思考・判断】)

<p>調 べ る</p>	<p>5 自分たちの住んでいる地域が生まれ変わった理由を予想し，グループで話し合う。 話し合いの内容 なぜ，畑がなかったのか。 なぜ，畑が増えたのか。</p> <p>6 話し合った結果をカードに記入し，発表する。 ・作物が育たない土地だったのかもしれない。 ・台風や日照りがあったのかもしれない。 ・丈夫な作物が手に入ったのかもしれない。 ・前田利右衛門のもってきたさつまいものおかげかもしれない。</p>	<p>20 分</p>	<p>山川町がおかれている地理的な環境，気候などを考えながら畑がない理由を考えさせる。 現在，畑で生産されている物は何かということを考えさせる。</p> <p>地理的な条件や気候を克服することができたのはなぜかを考えさせる。</p> <p>前田利右衛門とさつまいもの存在が大きな鍵になっていることに気付かせる。</p>
<p>ま と め る</p>	<p>7 どんなことを調べたら自分たちの予想を確かめることができるか話し合いカードに記入する。 ・300年前の々の暮らし ・300年前の人々の気持ち ・前田利右衛門とさつまいも</p>	<p>7 分</p>	<p>予想を裏付けるための追求の柱が立てられるようにする。</p>
<p>広 げ る</p>	<p>8 次時への見通しをもつ。 ・調べること ・調べる方法</p>	<p>3 分</p>	<p>調べる方法も考えさせる。</p>